

## 5) ダム等の整備状況

淡路地域には、洪水調節機能(農地防災含む)を有するダムが7基あり、下流域の洪水被害軽減に寄与している。

## 6) 内水対策の状況

三原川流域の下流部は内水氾濫の常襲地区となっており、浸水被害軽減のためポンプ施設の整備等を進めてきた。



入貫川排水機場 (6.6m<sup>3</sup>/s→16.8m<sup>3</sup>/s 増強完了)    孫太川排水機場 (7.5m<sup>3</sup>/s 更新完了)

## (2) 下水道(雨水)の整備状況

淡路地域では、洲本市、淡路市の公共下水道、特定環境保全公共下水道において、雨水整備が実施されている。

## 2. これまでの取組実績（平成26年度～令和5年度）

### 2-1. 河川下水道対策

#### (1) 河川の整備及び維持

##### 1) 河道対策

##### ア) 河川整備計画等に基づく計画的な取組み

##### ① 洲本川水系

平成16年10月の台風23号により発生した戦後最大規模の洪水で大きな被害を受けた洲本川、鮎屋川、奥畑川、巽川、千草川、猪鼻川、樋戸野川では、戦後最大規模の洪水から浸水被害を防止又は軽減することを目標とした河川改修を実施してきた。市は、陀仏川の河川改修を実施した。

平成23年9月台風第15号により発生した洪水（初尾川では戦後最大規模）で家屋が浸水被害を受けた初尾川では、戦後最大規模の洪水から浸水被害を軽減することを目標として、洲本川との本支川バランスを保った整備を行った（表7、図20）。

洲本川、鮎屋川、巽川、猪鼻川では、河川整備基本方針の計画高水流量相当の整備が完了している。

河川整備計画では、流下能力が不足し目標流量を安全に流下させることができない区間があるため、目標流量を安全に流下させることを目的に、表8、図21に示す箇所において、現地の状況に応じて河道拡幅や築堤・河床掘削等により河積を拡大する。

千草川では、激特事業により戦後最大規模の洪水に対する浸水被害軽減が図られているが、市街地に近く、治水安全度が依然として低いため、計画高水流量相当の整備を完了させることを目標としている。

竹原川では、年超過確率1/10の降雨で発生する洪水を安全に流下させることを目標としている。

※年超過確率：ある一定規模の降雨量を超える降雨が1年間に発生する確率を表したもの。例えば、年超過確率1/10の降雨量が時間雨量30mm とは、毎年10%の確率で時間雨量30mm を超える降雨が発生することを表す

表7 洲本川水系における取組実績

河川名	整備箇所	延長(km)	主な整備内容	備考
初尾川	洲本川合流点～口堂橋付近	1.19	河床掘削、河道 拡幅・築堤	H26完了

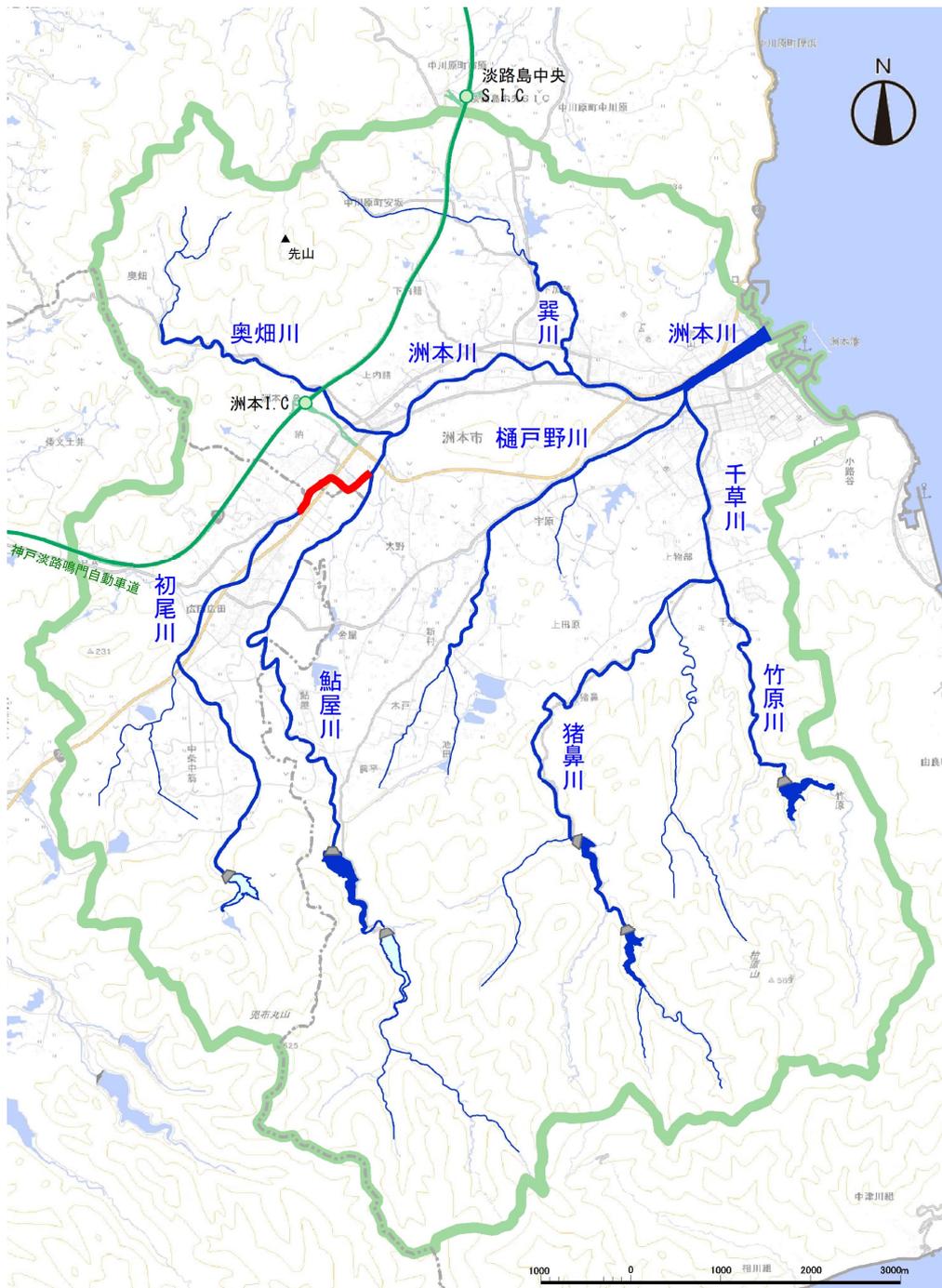


図20 洲本川水系における取組位置

表8 洲本川水系河川整備計画に記載のある区間

河川名	番号	施工の場所	延長(km)	施工内容	備考
千草川	①	樋野川合流点 ～上流端	2.1	河床掘削	
竹原川	②	猪鼻川合流点 ～東橋付近	0.4	河床掘削 橋梁架け替え	

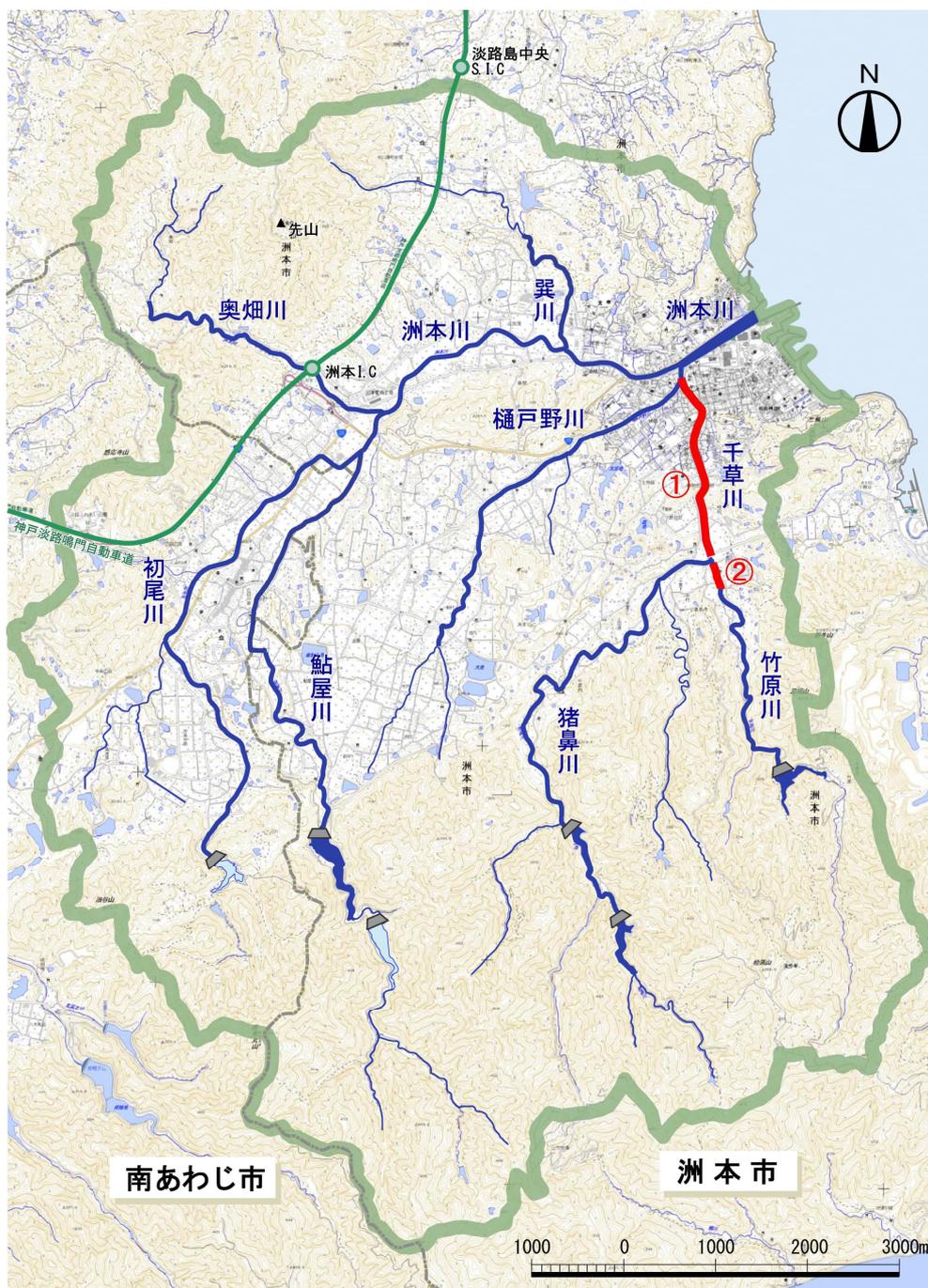


図21 洲本川水系河川整備計画に記載のある区間

## ② 三原川水系

### 【流下能力向上対策】

三原川水系では、下流部より昭和54年台風16号洪水を対象とした河川改修を進めている。再度災害防止の観点から、既往最大規模の平成16年台風23号に対応した河道整備が望ましいものの、これまでの整備規模より大規模な改修計画では、下流部より再度改修する必要が生じる。このため河川整備計画では、流域全体の治水安全度の向上を目指し、これまで進めてきた昭和54年台風16号規模の洪水を安全に流下させることを目標とした河道改修を実施している。

現況河道では流下能力が不足し、目標流量を安全に流下させることができない区間が多く存在する。このため、流域の資産等を考慮の上、目標流量に対して流下能力が不足する区間のうち、平成16年台風23号の浸水区域や河川の優先度を考慮し、河川整備計画の対象期間で下流から一連で改修が実施できる区間を、計画的に整備を進める区間として設定し、改修を進めている。

表9 三原川水系河川整備計画に記載のある区間

河川	区間	延長(km)	施工内容	備考	
三原川	①河口～御原橋	0.9	堤防整備・河床掘削	完了	
	②倭文川合流点 ～松田橋上流	3.4	河道拡幅・堤防整備・河床掘削 橋梁架替・井堰改築		
	大日川	③新川合流点下流 ～牛内川合流点	5.5	河道拡幅・堤防整備・河床掘削 橋梁架替・井堰改築	事業中
	馬乗捨川	④大日川合流点 ～糸岡池付近	1.8	河道拡幅・堤防整備・河床掘削 橋梁架替・井堰改築	
	山路川	⑤大日川合流点 ～無名橋	0.8	河道拡幅・堤防整備 橋梁架替	
	倭文川	⑥三原川合流点 ～長田川合流点	2.6	堤防整備・河床掘削 橋梁架替	
	長田川	⑦倭文川合流点 ～本四連絡道路	2.0	堤防整備・河床掘削 橋梁架替・井堰改築	
	成相川	⑧三原川合流点 ～中所橋上流	0.7	堤防整備・河床掘削 橋梁架替	

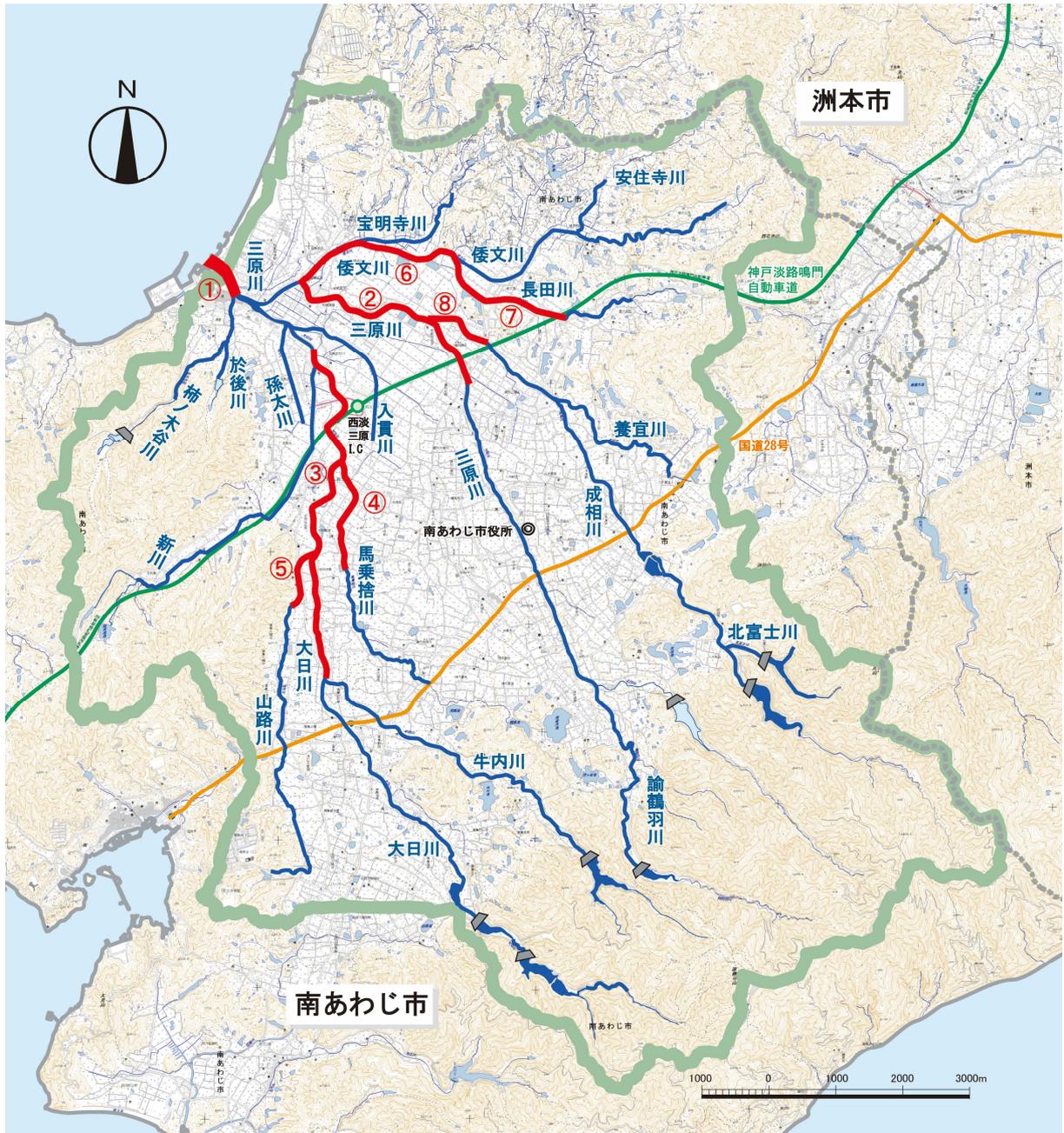


図22 三原川水系河川整備計画に記載のある区間

### 【内水対策】

内水対策として、供用開始後、50年近く経過している排水機場の更新等を行っている。

表10 三原川水系における取組内容(内水対策)

事業主体	関連河川	排水機場	施工内容	備考
県	入貫川	入貫川排水機場	増強	H25完了
	孫太川	孫太川排水機場	更新	R5完了
	宝明寺川	倭文川排水機場	更新	事業中
南あわじ市	倭文川	小型排水ポンプ(2基)	新設	R1完了
	大日川	志知川(南)排水機場	更新	事業中
	孫太川	湊東第1排水ポンプ	増強	事業中

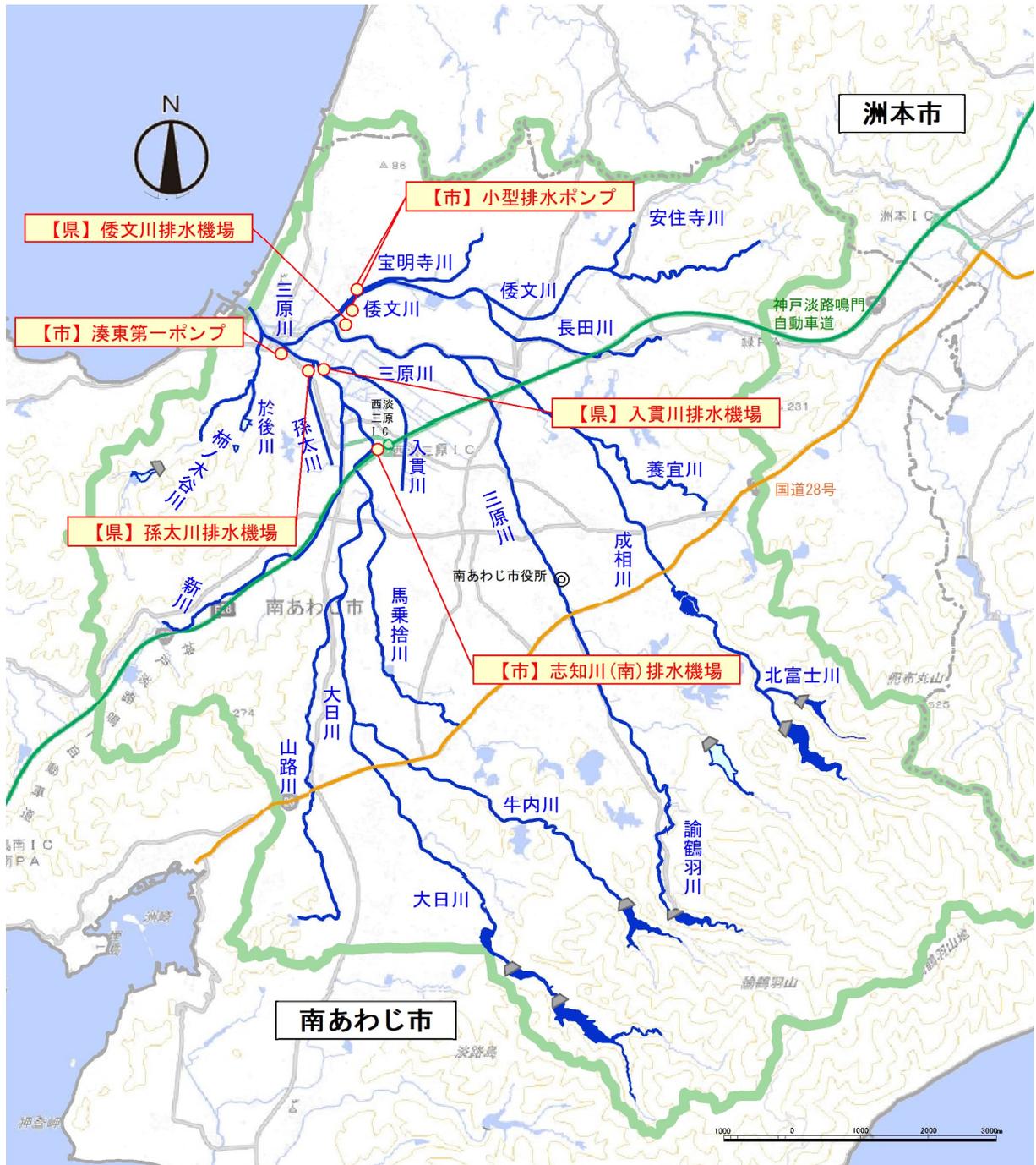


図23 三原川水系における取組位置(内水対策)

### ③ 志筑川水系

志筑川水系では、過去の災害実績などを踏まえ、年超過確率1/50の洪水に対応することを目標として設定した整備目標流量を、安全に流下させるために、河川整備を実施した。

表11 志筑川水系における取組内容

河川名	施工の場所	延長(km)	施工内容	備考
志筑川	法河川下流端～中道橋	2.6	河道拡幅、河床掘削 パラペット等	H29床上 完了
宝珠川	志筑大橋～新中村橋	1.15	河道拡幅 河床掘削	H26完了
放水路	志筑川2.0km 地点 ～宝珠川1.2km 地点	0.78	新川設置	



図24 志筑川水系における取組位置

#### ④ その他水系

その他水系の河川については、県及び市による適切な整備、維持管理に加え、以下の取組を実施した。

表12 その他水系における取組内容

水系名	河川名	施工の場所	延長(km)	施工内容	備考
都志川	都志川	都志地区 河口～万才川合流点	約0.7	河道拡幅、河床掘削 堰・橋梁・樋門の改修等	H28完了

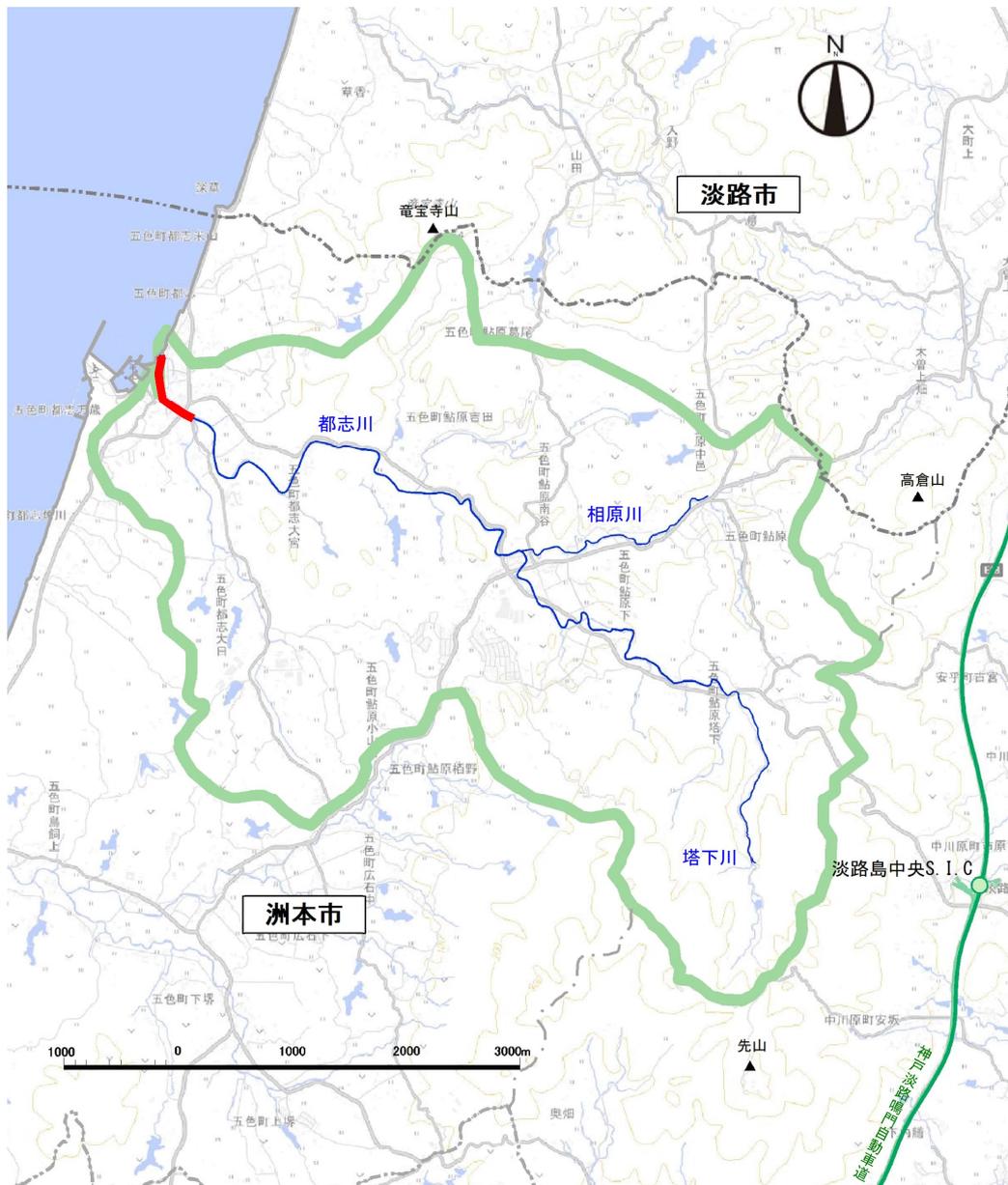


図25 その他水系における取組位置（都志川水系）

1) 中上流部における緊急的な取組み

近年家屋等への浸水被害が発生している箇所において、緊急的に治水安全度の向上を図るため、上下流バランスに配慮しながら、局所的な整備を実施した。

表13 中上流部における緊急的な取組内容

水系名	河川名	施工の場所	延長(m)	施工内容	備考
郡家川	郡家川	淡路市大町下	32	パラペット等	R4完了
山田川	山田川	淡路市草香	100	河道掘削等	R2完了
三原川	山路川	南あわじ市賀集	75	河床掘削	R5完了
	山路川	南あわじ市北阿万	50	河床掘削	R5完了
	倭文川	南あわじ市倭文土井	50	護岸等	R2完了
塩屋川	塩屋川	南あわじ市阿万上町	100	河道掘削	R2完了

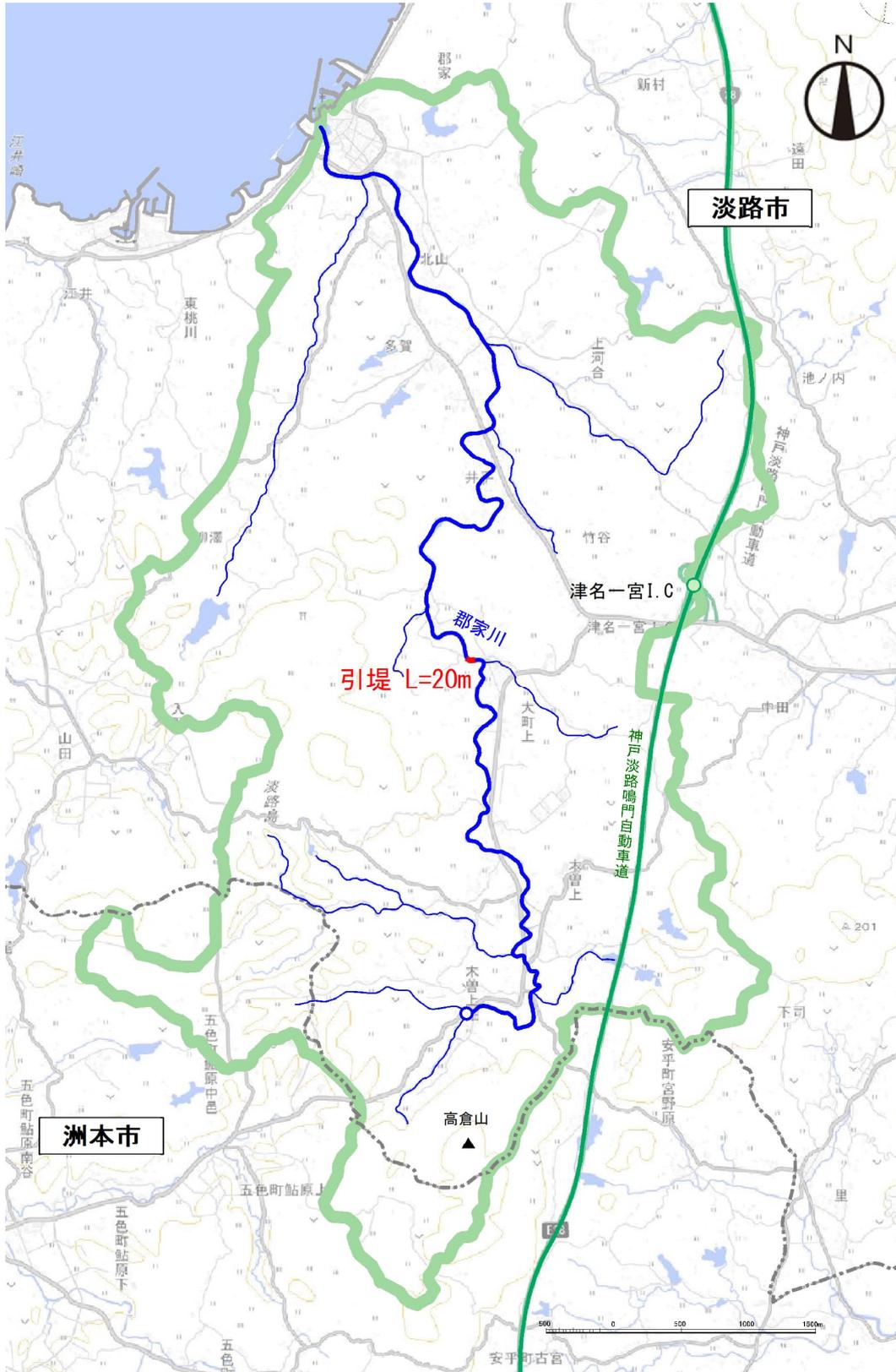


図26 中上流部における緊急的な取組位置（郡家川水系）

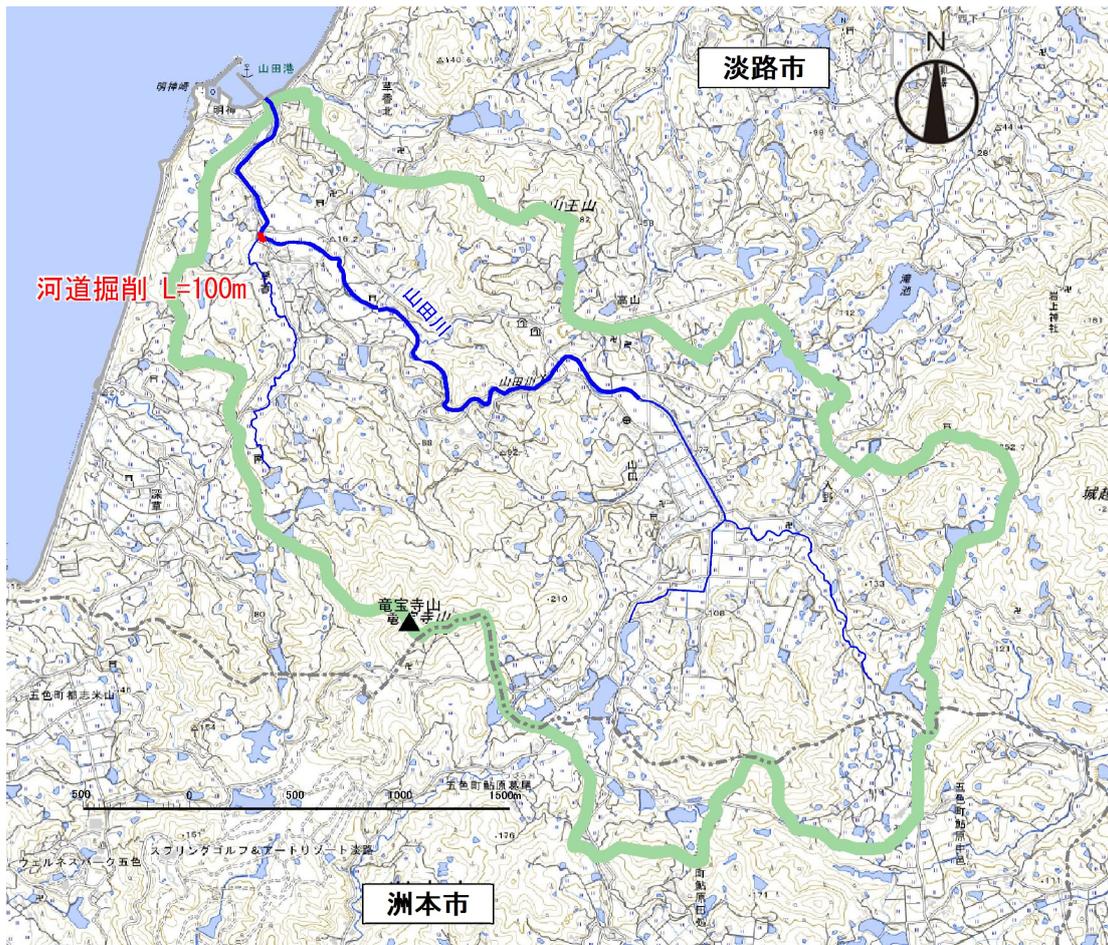


図27 中上流部における緊急的な取組位置（山田川水系）

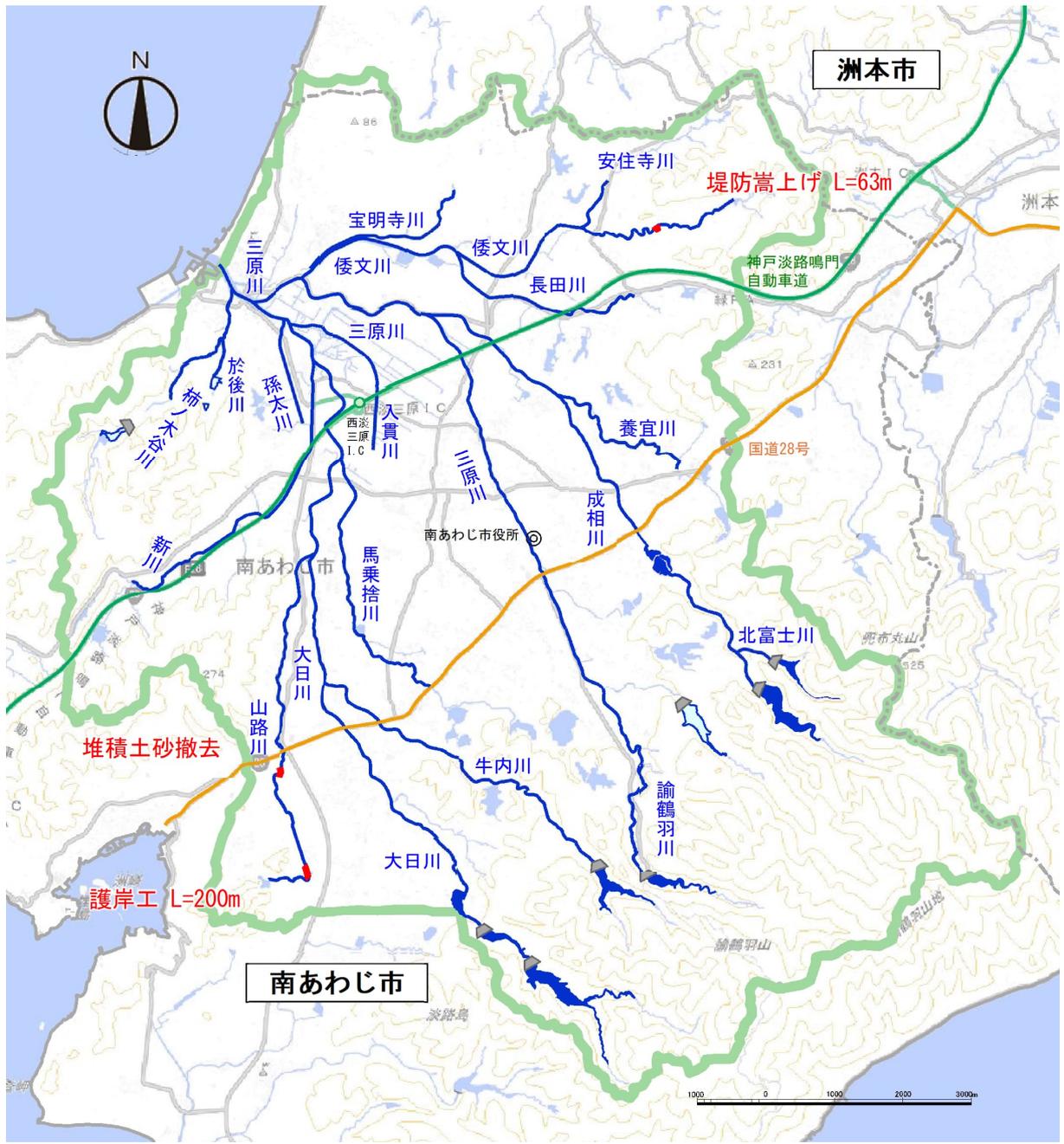


図28 中上流部における緊急的な取組位置（三原川水系）

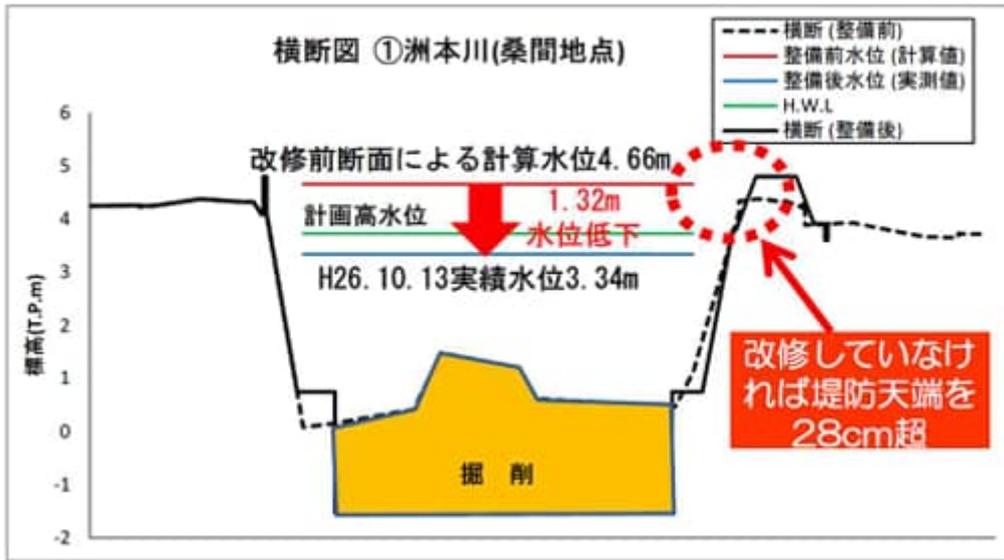


図29 中上流部における緊急的な取組位置（塩屋川水系）

トピックス：洲本川河川改修の効果

平成16年10月の台風23号で甚大な被害が発生した洲本川では、激甚災害対策特別緊急事業等による河川改修を実施した。

平成26年10月の台風19号豪雨は、平成16年台風23号豪雨（死者5名、床上・床下浸水家屋3,496戸）を上回る降雨でしたが、河川改修の効果により、溢水による市街地の浸水被害は生じなかった。



台風第19号豪雨の状況

洲本では、平成16年台風第23号、平成23年台風第15号の降雨を上回る豪雨でした。雨量から見ると、河川改修前であれば、平成16年台風第23号時と同規模の被害になっていたと想定されます。

		洲本(洲本市)
平成16年10月 台風第23号	時間最大	51
	24時間最大	317
平成23年9月 台風第15号	時間最大	51
	24時間最大	330
平成26年10月 台風第19号	時間最大	93
	24時間最大	334



トピックス：志筑川放水路の効果

志筑川本川は、現況流下能力が計画流量の10%程度と極めて低く、たびたび浸水被害が生じているため、平成18年度以降、宝珠川への放水路の整備が進められ、平成26年度に完成した。

平成26年10月の台風19号豪雨は、平成16年台風23号豪雨（浸水面積40ha、床上浸水143戸、床下浸水131戸）を上回る降雨でしたが、放水路が効果を発揮し、淡路市中心市街地の浸水被害は生じなかった。



志筑川放水路位置図

台風第19号豪雨の状況

志筑(淡路市)では、平成16年台風23号、平成23年台風15号の降雨に匹敵する豪雨でした。雨量から見ると、放水路整備前であれば、平成16年台風23号時と同規模の浸水被害になっていたと想定されます。

		志筑(淡路市)
平成16年10月 台風第23号	時間最大	77
	24時間最大	356
平成23年9月 台風第15号	時間最大	77
	24時間最大	428
平成26年10月 台風第19号	時間最大	88
	24時間最大	371

放水路 志筑川上流からの水を放水路を通じて、宝珠川へ流すことによって志筑川下流域の被害を軽減



宝珠川



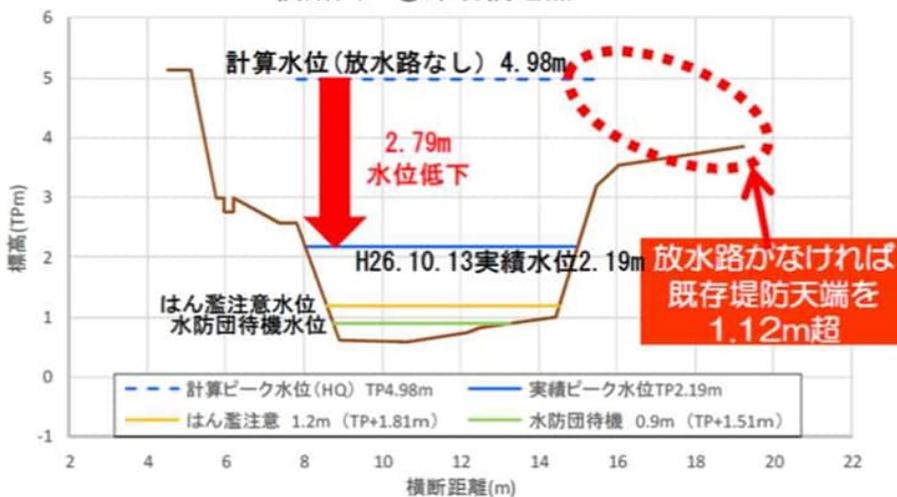
放水路からの水が流入しても、安全に水を流下する宝珠川

志筑川本川



大雨が降っても、水位があまり上がらなかった志筑川本川

横断面図 ①津名橋地点

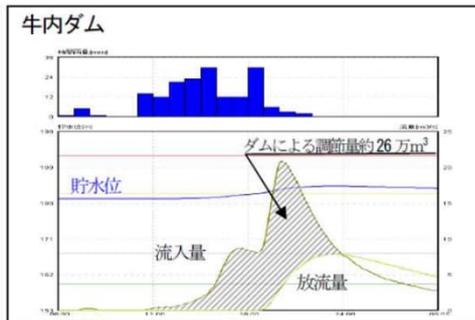
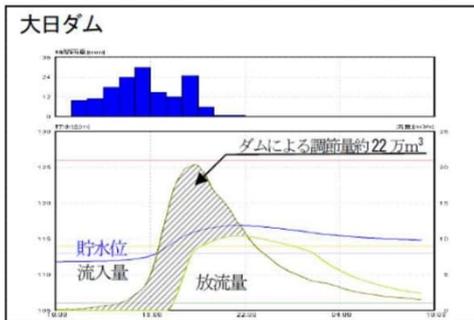


## 2) ダム

県及び市等は、淡路地域内にある洪水調節機能（農業防災含む）を有する8基のダムについて、治水効果が確実に発揮されるよう適切な運用・管理を行っている。

### トピックス：洪水調節ダムの効果

平成26年台風19号豪雨において、統合管理中の三原川水系5ダムであわせて約139万 $m^3$ を一時的にダムに貯留し、牛内ダム及び大日ダム下流の下所橋地点で水位を43cm低減し、水防団待機水位を回避するなどの効果を発揮した。



### ダム地点降雨量と洪水調節状況

#### 水位低減効果の例

○大日・牛内ダム  
大日川(下所橋水位観測所)の最高水位を約43cm低下(1.99m→1.56m)し、水防団待機水位を回避しました。



## (2) 下水道（雨水）の整備及び維持

淡路地域では、洲本市、淡路市の公共下水道、特定環境保全公共下水道において、雨水整備が実施されている。



炬口ポンプ場（洲本市）



桑間第3雨水幹線（洲本市）

## 2-2. 流域対策

### (1) 調整池の設置及び保全

R6年度末時点で、計画地域において調整池は80箇所設置されており、この内、市で管理している調整池は40箇所ある(県管理はなし)。



新庁舎開設に伴う調整池（調整池機能を備えた駐車場）の整備（南あわじ市）

### (2) 土地等の雨水貯留浸透機能の確保等

#### 1) ため池

計画地域における防災重点農業用ため池(決壊すると人的被害を及ぼすおそれのあるため池)は表14に示すとおり、1,412箇所ある。

農業上の利水容量に余裕があり、ため池管理者の同意を得られる場合は、大規模ため池を中心に、洪水吐の切り欠きや取水施設への緊急放流機能の追加、池底掘削など、洪水調節機能を向上させるための改良を行っている。

表14 防災重点農業用ため池数  
(決壊すると人的被害を及ぼすおそれのあるため池)

市名	施設数 (箇所)
洲本市	473
南あわじ市	293
淡路市	646
全体	1,412

備考：県農地整備課調べ(R6.9)

## 2) 水田

計画地域におけるほ場整備済みの水田面積は表15に示すとおり3,549haである。県及び市は、水田からの排水を堰板によって調節するなど水田貯留の取組を進めるため、多面的機能支払交付金<sup>\*</sup>の活動組織等に対して積極的な普及啓発に努めるとともに、取組にあたっての技術的な助言・指導を行っている。

表15 水田面積一覧(令和5年度末時点)  
(ほ場整備済み区域面積)

市名	面積 (ha)
洲本市	898
南あわじ市	1,905
淡路市	746
全体	3,549

※「多面的機能支払交付金」で堰板などが設置可能である

出典：兵庫県農地整備課調べ

### トピックス：「たんぼダム」の取組(兵庫県)

県では、水田における雨水貯留「たんぼダム」の全県的な普及拡大を図るための取組を進めている。

- 平成25年度 西播磨地域の水田をモデルに実施効果等を検証
- 平成26年度 排水を調節するためのせき板等を希望集落に配布する  
「せき板1000枚配布大作戦」を展開

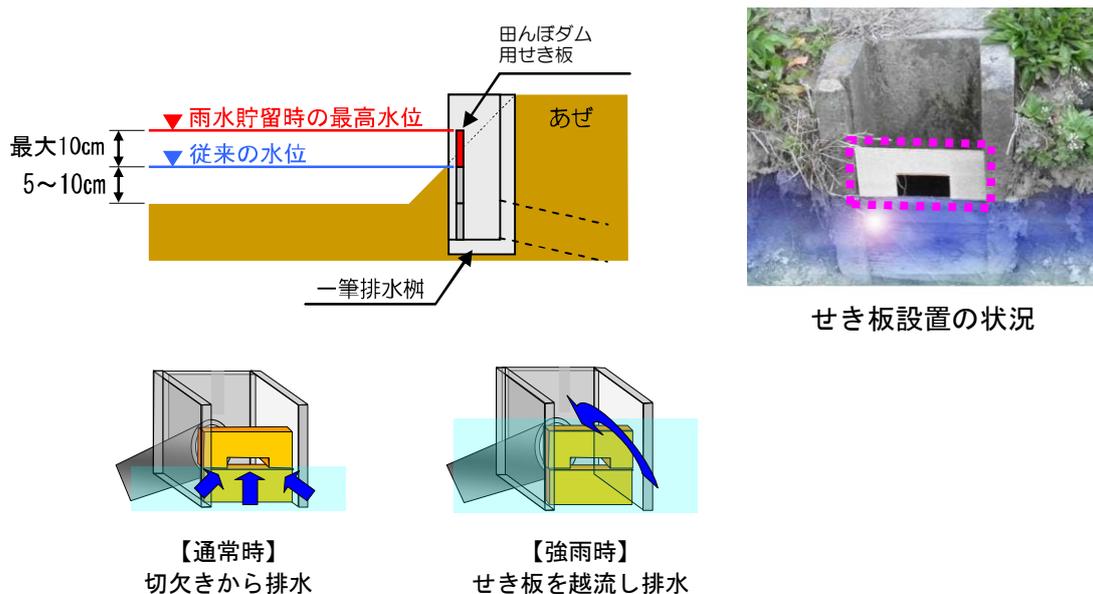


図30 田んぼダムのイメージ(せき板)

### 3) 学校・公園、その他大規模施設

計画地域内にある雨水貯留浸透施設設置の候補地となる学校・公園を表16、表17に、官公庁・大規模店舗などの大規模施設を表18に示す。

学校・公園や、大規模施設については、総合治水条例の基本理念に基づき、雨水貯留浸透機能の確保に取り組んでいる。

表16 学校数・面積等一覧(R7年1月時点)

市名	施設数 (箇所)	施設面積 (ha)	校庭面積 (ha)
洲本市	21	40	19
南あわじ市	20	38	22
淡路市	20	42	22
全体	61	120	63

※公立の小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校を集計

表17 公園箇所数及び面積等一覧(R7年1月時点)

市名	施設数 (箇所)	施設面積 (ha)
洲本市	4	103,601
南あわじ市	14	238,089
淡路市	7	1,284,828
全体	25	1,626,518

表18 大規模施設数及び面積一覧

(敷地面積1,000m<sup>2</sup>以上、令和2年4月1日～令和6年12月末に承認を受けた建築物)

市名	施設数(箇所)					施設面積 (m <sup>2</sup> )
	病院	官公庁	大規模 公共施設	大規模 店舗	合計	
洲本市	0	1	4	12	17	76,462.40
南あわじ市	2	1	8	5	16	260,379.81
淡路市	1	3	17	30	51	934,309.05
全体	3	5	29	47	84	1,271,151.26

出典：県建築確認申請データの主要用途区分名を参考に施設を分類。



公園貯留（城戸アグリ公園）



雨水貯留タンク（洲本総合庁舎）



ガラスパーキング（洲本総合庁舎）



歩道部の透水性舗装（県道洲本五色線 洲本市）

### (3) 貯水施設の雨水貯留容量の確保

#### 1) ため池の安全管理と水位低下による雨水貯留容量の確保

県は、ため池下流域の浸水被害の発生状況やため池の規模、推進協議会の協議内容等から、貯水量を減じる等の適切な措置を行うことが計画地域における流域対策に特に必要と認め、所有者の同意を得られたため池を指定貯水施設として指定（条例第27条）し、所有者等はその機能維持を図っている。

表19 指定貯水施設の指定状況(R7年1月時点)

所在地	箇所数
洲本市	58
南あわじ市	30
淡路市	28
全体	116

## トピックス：ため池の治水活用

淡路島では約1万箇所のため池が密集しており、ため池の雨水の一時貯留機能を最大限発揮させる取組を平成27年度から進めてきた。

平成28年9月の台風16号では、ため池の事前放流により特定ため池165箇所の貯留により、洲本川の桑間地点で約11cm 水位低減効果があったと推測される。

### 取組の概要

#### ■事前放流施設の整備

管理者が取り組みやすい構造(一度、開けるだけで操作不要)とするため

- ①ため池改修事業と併せた整備
- ②治水効果の高いため池での単独整備
- ③災害復旧と併せた整備 を推進



#### ■事前放流の普及啓発

##### ①管理者への事前放流の呼びかけ

台風前に関係市のCATV、防災無線、電話等により、管理者へ事前放流の周知・依頼

##### ②「淡路ため池管理者防災ネット」によるメール配信

登録した管理者の携帯へ、台風前の事前放流依頼、通過後の施設点検、その他管理情報をメールで配信

[H28 末登録数:250人(特定ため池管理者の約1/4)]

##### 【登録方法】

QRコードを読み取る→  
又は at@bosai.net へ  
空メールを送信すれば  
返信があり登録可



##### ③管理者講習会の開催

管理者の適正管理に向けた講習会において、事前放流の意義や効果を啓発  
分かりやすい模型による説明→



##### ④かいぼりの復活

かいぼり(池干し)を復活し、9月以降の落水を拡大するとともに貯水量の増加、施設点検、豊かな海づくり等を促進

### 事業効果

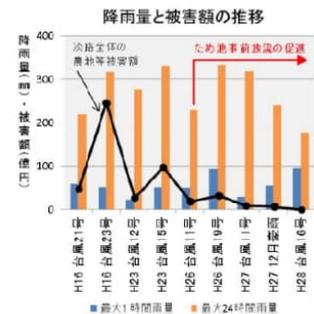
#### ■台風時の河川水位の低減

平成28年9月の台風16号では、最大1時間雨量95mm(洲本観測所歴代2位)を記録するなど豪雨が発生した。

洲本川では、ため池の事前放流等により、特定ため池165箇所の貯留により、桑間地点で11cm水位を低減したと推測される。

#### ■農地災害等の低減

過去に大災害をもたらした規模の降雨はあるが、事前放流開始の平成25年度から、農地・農業用施設災害は年々、減少傾向にある。



#### (4) 森林の整備及び保全

県及び市は、NPO 法人・地域住民と連携しながら、放置竹林対策として、竹取物語シニアサポーター「竹取の翁」活動支援や放置竹林における森林復元整備、竹資源（燃料利用: 竹チップボイラー、農業利用: 畜産飼料・土壌改良材、建設資材利用: 土系舗装）の利用推進に取り組んでいる。

表20 森林の整備及び保全の取組実績

主体	取組内容
県	森林の保全、回復と再生を目指し、平成14年度から「新ひょうごの森づくり」を進めている。現在は第3期対策（令和4年～13年度）を推進。
	平成18年度から県民緑税を活用し、「災害に強い森づくり」（災害緩衝林の造成等、R4年度末267ha 整備済み）を推進。
県、市	竹取の翁活動支援(竹細工講習会の実施) (39回)
	森林復元竹林調査・整備 (4箇所)
	竹資源の利用推進 (あわじ竹資源I初級-化5ヶ年計画策定、チップボイラーモニター試験2基など)
	チップボイラーの導入 (4基)

表21 計画地域の山林面積

市	山林面積(ha)
洲本市	10,315
南あわじ市	13,096
淡路市	7,218
合計	30,629

出典：兵庫県統計書, 令和4年

## 2-3. 減災対策

### (1) 浸水による被害の軽減に関する学習

#### 1) 防災マップの作成・支援

地域住民は、過去の災害情報、避難経路、避難経路上の危険箇所、必要な防災対応などを地域住民自らの手で地図に記載する「防災マップ」を作成し、水害リスクの認識の向上に努めるとともに、自主防災組織等の活性化を図っている。

表22 計画地域の防災マップ作成状況(R7年1月時点)

市名	防災マップ作成済み地区数
洲本市	10
南あわじ市	6
淡路市	1

### (2) 浸水による被害からの早期の生活の再建

#### 1) 共済制度の加入促進

阪神・淡路大震災の経験と教訓から創設された共済制度である「フェニックス共済（兵庫県住宅再建共済制度）」は、被災後の住宅及び家財の再建を支援する仕組みであり、特に住宅再建共済は県全体の加入率が9.4%（令和6年3月末現在）に対し、淡路地域の加入率は、阪神・淡路大震災や平成16年水害等の影響もあり、23.2%と他地域に比べて非常に高い。

図31 フェニックス共済パンフレット

表23 フェニックス共済加入状況(淡路地域)

市名	住宅再建共済制度	
	令和6年3月末	
	加入戸数	加入率
洲本市	3,522	21.2%
南あわじ市	4,665	30.7%
淡路市	2,496	17.6%
淡路全体	10,713	23.2%
県内全体	166,892	9.4%

### 3. 地域総合治水推進計画の改定履歴

#### 改定履歴

改定年月	主な改定内容
計画策定 : 平成26年3月	—
第1回改定 : 平成28年4月	河川中上流部治水対策を追加
第2回改定 : 平成30年3月	中間見直し ・ 各種データ更新 ・ 水防災意識社会再構築ビジョンに基づく取組の追加 等
第3回改定 : 令和3年3月	河川対策アクションプログラムに基づく事前防災対策の推進を追記
第4回改定 : 令和7年3月	計画期間概ね10年が経過したことによる計画改定